

「ながらスマホ」は絶対にやめましょう

埼玉県教育委員会

歩行中や自動車・自転車などの運転中にスマートフォンを操作することを「ながらスマホ」といいます。スマートフォンの普及に伴い、「ながらスマホ」が原因となった事故やトラブルが大きな問題となっています。

「ながらスマホ」が引き起こす事故・トラブル

「ながらスマホ」が原因で起きた事故やトラブルには、どのようなものがあるのでしょうか。ここでは、歩行中や自転車の運転中の「ながらスマホ」が原因となった事故・トラブルをご紹介します。

歩行中の「ながらスマホ」が原因で起きた事故・トラブル

- ・足を踏み外して階段から転落した
- ・駅のホームから落ちた
- ・赤信号になったことに気づかず横断歩道を渡り、車と接触した
- ・知らない人にあとをつけられた
- ・ひったくりの被害にあった
- ・人とぶつかりトラブルになった

※最近では、歩きながらスマートフォンを操作している人にわざとぶつかり、けがをさせたり、けがをしたなどのクレームをつけて金銭を要求したりする人もいます。

自転車の運転中の「ながらスマホ」が原因で起きた事故・トラブル

- ・停車していた車にぶつかり、修理代を請求された
- ・電柱などに追突した
- ・用水路に転落した
- ・歩行者とぶつかり、大けがを負わせてしまった

※過去には、夜間に携帯電話を操作しながら自転車を運転していた女子高生が、前方を歩く50代の女性とぶつかり、歩行困難となる障害を負わせるという事故がありました。その後女子高生は約5000万円の損害賠償の支払いを命じられました。



「自分はスマートフォンを使っているから大丈夫」「街中には、ながらスマホをしている人がたくさんいるし、自分もちょっとくらい平気だろう」と考えてしまう人も中にはいるかもしれません。

しかし、スマートフォンを操作していると、画面に意識が向いて視野がせまくなり、注意力が散漫になります。また、片手がふさがっているため、転んだ時に受け身が取れなかったり、とっさに自転車のブレーキがかけられなかったりするため、大きな事故になってしまうこともあります。

「ながらスマホ」はとても危険な行為です。自分だけでなく、周囲の人に大けがを負わせてしまうこともあります。

歩行中や自転車の運転中にスマートフォンを使いたくなったら、周りの人たちの邪魔にならない場所で、必ず立ち止まって操作することを心がけましょう。